

「農業技術の匠」の技術の概要等

(敬称略・都道府県順・年齢は公表日時点)

NO.	都道府県	「農業技術の匠」の氏名等	技術の概要
1	北海道	つべつちよう ゆうき らくのうけんきゅうかい 津別町有機酪農研究会 — (会長:山田 照夫)	<有機栽培による飼料作物生産体系の確立> 土壌分析と収量調査に基づいた有機肥料の適正施用を基に、草地ではマメ科牧草追播と雑草抑制の栽培技術を、サイレージ用とうもろこしでは機械除草技術を組み合わせて、飼料作物の有機生産体系を確立。
2	青森県	さいとう やしのり 齋藤 彌志則 (男・72) 財団法人 青森県りんご協会 有限会社 ゴールド農園	<強勢台木マルバカイドウ台を用いた高品質多収生産技術の確立> 山手の積雪地域での雪害対策として、大樹に仕立て、ダイヤモンド方式と称す剪定方法を考案。葉枚数の確保と着果量を制限し、りんごの高品質多収生産を実現。
3	宮城県	きとう たみお 佐藤 民夫 (男・58) 村田ファームーズ 会長	<新しい育苗・定植技術によるブロッコリー・スイートコーンの作付拡大> ブロッコリーの老化苗の育成・定植技術やマルチと深植えによる独自のスイートコーンの早期定植技術を核として、出荷期間を延長し、直売所への野菜の周年出荷作付体系を確立。
4	秋田県	ふじわら ちようぞう 藤原 長蔵 (男・59) JAうご花卉園芸部会 湯沢雄勝農業士会 会長	<豪雪地域における低コスト周年園芸の実践> ストックとオクラ、フクタチを組み合わせ、特にストック栽培技術において独自のブロック育苗法を考案し、八重鑑別技術等を確立、高い収益性を確保。
5	千葉県	ところ てるよ 野老 昭代 (女・82) JA山武郡市稲作部会	<60年間のデータに基づく気象変動に対応した良質・多収米づくり> コシヒカリ反収600kgを安定的に確保する4つの収量構成要素目標とそれを達成するためポイントを女性ならではの緻密な観察と記録によりとりまとめ、多収米づくり技術を確立。
6	福井県	さいとう かずみ 齋藤 一己 (男・61) 出口大豆生産組合 組合長	<大豆の条間除草剤散布作業の省力化> 遮へい板により農薬の大豆への飛散を防ぎ、かつ、同時に中耕・培土を行うことができる装置を開発することにより、省力的で効果的な作業体系を確立。
7	岐阜県	かとう たいいち 加藤 泰一 (男・65) 糸貫柿振興会 委員長	<徹底した間伐と樹勢管理を重視した高品質柿生産> カキの栽培において、栽植密度を慣行栽培の半分程度に抑えて、日当たりと風通しの良い環境を確保するとともに、結果母枝数の適正化、早めの主枝、垂主枝の剪定の樹勢管理技術を確立することにより、高品質、省力化、大規模経営を実現。

NO.	都道府県	「農業技術の匠」の氏名等	技術の概要
8	愛知県	伊藤 忠夫 (男・58) JA海部東営農受託部会 農事組合法人 白浜営農組合 代表理事	<作業機開発による水稲不耕起 ^{ふいみぞちよくほ} V溝直播栽培の鎮圧整地の技術の確立> 冬季の水利のない地域で水稲不耕起V溝直播栽培の導入推進を図るため、鳥害防止や播種精度の向上に効果のあるトラクター ^{わだち} 轍跡の解消作業機(小型のスキ)と排水用の溝切機を開発し、効率的で、精度の高い鎮圧整地技術を確立。
9	三重県	大西 誠 (男・73) 『株式会社 金山パイロットファーム』	<温州みかんの隔年結果防止及び省力的マルチ被覆方式> ビニールハウスの巻取機と直管パイプを利用し、マルチの省力被覆・除去作業法とともに、摘果剤を利用した半樹摘果技術を体系的に確立。
10	岡山県	花澤 茂 (男・77) 『花澤ぶどう研究所』	<ぶどう「瀬戸ジャイアンツ」ほか7品種の育成> 食味が優れ、果形がユニークな種なしで皮ごと食べられる、裂果しないぶどう品種等を育成するとともに、地元高校生などに育種方法の指導等を実施。
11	岡山県	宮崎 昭雄 (男・66) 福井新田茄子生産組合	<天敵と微生物農薬を活用した施設なす特別栽培技術の確立> 天敵の定着を促進させる技術を開発し、複数の天敵や微生物農薬を利用した病害虫抑制体系及び訪花昆虫を利用したなすの省力安定栽培を確立。
12	岡山県	香西 達夫 (男・61) きよね有機の郷 会長 『有限会社 吉備路オーガニックワーク』 倉敷地方有機無農薬農産物生産研究会 会長	<有機ニンジンの大規模経営における安定生産技術の確立> 高畝・明渠・暗渠による排水対策や畝立後の太陽熱消毒による病害、雑草防除技術と作業効率を向上させる機械装置を自ら開発し、大規模有機ニンジンの栽培体系を確立。
13	熊本県	川上 清 (男・52) JA熊本市高砂レンコン部会	<農業機械の自作による省力・低コストれんこん経営> レンコン栽培における植付準備から収穫調製までの各段階において、機械の改良、開発を行い、省力栽培を実践。農作業機の自作を希望する農業者との交流活動を継続。
14	沖縄県	金城 政雄 (男・72) (沖縄県・恩納村)	<さとうきび一芽苗 ^{いちがなえ} を利用した補植による単収の向上> 補植用に用いられる一芽苗の育成において、分けつや発根を旺盛にする置床式という独自の方法を考案するとともに、植付器具・方法等を工夫して地域の平均を上回る単収を確保。